研究区分	教員特別研究推進　教育推進

研　究 テーマ	国際看護教育における学生の文化的能力促進学習プログラム改訂版の実施と最終評価				
研究組織	代　表　者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸　まゆみ
	研究分担者	所属・職名	ポートランド大学看護学部・講師	氏名	Layla Gurriges
		所属・職名	国立コンケン大学看護学部・講師	氏名	Juraporn Tangpukdee
		所属・職名	上智大学看護学部・准教授	氏名	吉野　八重
		所属・職名	オレゴン健康科学大学看護学部・講師	氏名	Ruth Tadesse
		所属・職名	ボストンカレッジ・教授／副研究科長	氏名	Christopher Lee
	発　表　者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸　まゆみ

講演題目

国際看護教育における学生の文化的能力促進学習プログラムの最終評価

研究の目的、成果及び今後の展望

【目的】本研究の目的は、①過去４年の評価結果をもとにプログラムの改変を行う②令和３年度に開講される国際保健看護実習の実施準備③COIL 型授業を含めた国際保健医療の専門家によるゲスト講義などの実施④上記４つの海外大学に所属する看護教育・研究者ほかと連携し、本研究プログラムの質向上を図る⑤海外実習に関わる国内外の教員と学生たちからフィードバックを得、本研究の最終評価を行う。

【成果】①過去４年の本プログラム履修生と参加した他大学教員・学生からの評価をもとに、COIL 型授業には毎度アクティブラーニングを取り入れた。履修生が海外の教員・学生と交流する時間を増やした結果、学生から「英語力が向上した」「英語学習により興味を持った」「語学力に自信がついた」などの英語学習に対する前向きな言葉が聞かれると共に、「日本にいながら海外の看護者と会い学べることが嬉しい」「海外の医療状況がより理解できた」「もっと国際看護を学びたい」「どの国も看護や看護学生の悩みは共通だとわかり安心した」など科目内容の学びの深まりや国際交流に対し積極性がうかがえた。②長引くコロナ禍の影響により本学生・教員には渡航制限が解除されないままである。海外実習協定校の受け入れ準備も停滞中である。③令和３年度は本プロジェクトにて計 10 回の COIL 型授業と、国内・海外在住の国際保健医療の専門家によるゲスト講義を３回実施することができた。④本研究分担者が関わる COIL 型授業においては、授業実施前準備から実施後の省察を行い、課題を次の授業へ繋げることができた。⑤各授業後のサーベイ結果、各大学教員・学生から本プロジェクトの継続を求める声が９割以上であった。したがって、４年にわたる本プロジェクトは効果的であったと考える。

【今後の展望】令和４年度からは、本プロジェクトの継続と同時に、本プロジェクト参加の３カ国５大学連携によるグローバル看護教育プログラムについて研究を実施し量的・質的にプログラムを評価し、持続可能なグローバル教育の質向上に努める。